

## 発達障がい研修（夜間スポット研修）

受講者282名

日時 令和5年6月19日～12月5日 計12回

場所 子ども支援センターげんき研修室

講師 作業療法士：有川真弓氏 言語聴覚士：計野ちあき氏

心理士：前川圭一郎氏 藤原彩子氏 山川恵子氏

## 【内 容】

東京都保育士等キャリアアップ研修の講座と同じ内容の講座を開催。心理士、作業療法士、言語聴覚士と様々な専門分野の講師から、保育園現場における気になる子どもへのかかわり方や支援の方法を学んだ。様々な発達障がいへの対応や発達を促す遊び、言語発達の道筋や感覚統合の概念、愛着障害について、保育計画の立て方など、多くの事例や保育に活かせる活動の紹介、ビデオ視聴やグループワークなどを通して理解を深め、自身の園で実践に繋げていけることをねらいとした。

## 【受講者の感想】

## \* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

&lt;心理&gt;

- ・自閉症スペクトラム、ADHD、行動問題等について学ぶ中で、子ども一人一人の特性や困り感を把握し、行動の意味を見極め、環境を整えることが大切であると学んだ。保育者間で共有して取り組みたい。
- ・事例をもとに具体的な対応を学ぶことができた。ポジティブな言葉がけやほめることがいかに重要であるか実感した。明日から実践して、できないことを見るのではなくできていることをほめて、望ましい行動を増やせるようにしたい。

&lt;保育&gt;

- ・ワークシートをもとに園生活支援シートの書き方、活用法、長期目標、短期目標の考えなどを学んだ。職員間で確認して共有することが大切なので、すぐに報告したい。また保護者と協力して作成するものなので、保護者の気持ちに寄り添って作成することについても保育者間の共通認識としていく。
- ・個の視点だけでなく集団の視点も重要であり、目標達成のために環境を整備していく。
- ・グループワークでは他園の保育者の様々な見方、考え方を知ることができた。保育はチームですすめるものであり、他者の視点を大切にしていけることを保育者全員で共有したい。

&lt;ST：言語聴覚士&gt;

- ・言語の種類、言語障害、発声の仕組み、話し言葉にかかわる障がい、摂食・嚥下機能など、子どもが身につける時期や障がい疑われるポイント、言葉の獲得の仕組みなど多くの事例をもとにした講義を通して理解が深まった。吃音について代弁するのではなく最後までしっかり聞く丁寧なかかわりをしたい。食についても学習であるとのことなので保護者と協力してすすめていく。保育者間で共有して取り組みたい。
- ・保育者自身が言葉の使い方を意識し子どもの言葉に共感しながら、体験と言葉をつなげていく。
- ・気になる子どもへのかかわり方、言葉の力を伸ばす言葉遊びや手遊び、支援者としての配慮や大切にすべきことを学んだ。抽象的な言葉ではなく、より具体的、簡潔な言葉を使うようにする。言葉遊びは思った以上に頭を使ったり、深く考えたりすることを知った。大切な遊びとして明日の保育から実践していく。

&lt;OT：作業療法士&gt;

- ・感覚統合の視点からの子ども理解、前庭覚と固有受容覚の働きや特徴などについて学んだ。実際に動いたり考えたりすることで気づくことが多々あった。多くの感覚がある中で、人によって感じ方が違うことを知り、困っている子どもの行動をよく観察して理由を探り、対応を考えていく。
- ・感覚統合で重要な感覚と、そこに課題がある子どもの感じている世界について、また発達を促す遊びについて学んだ。遊びの実体験は非常に参考になり、明日の保育に活かしていく。保育者間で共有して発達に沿った遊びの環境を整えていく。子ども一人一人の発達にあった遊びとなっているのか見極めていきたい。
- ・様々な事例を通して子どもを感覚統合の視点から考えることで、子どもの思いや行動への理解が深まった。ビデオ視聴しながらのグループワークは子ども理解、支援のあり方など多くのことが学べたので、園内研修に取り入れていきたい。

&lt;家庭連携&gt;

- ・愛着障害について学ぶ中で発達障害と行動パターンが似ていることや区別しにくいこと、愛着パターンと保護者の養育態度の関係などの理解が深まった。子どもの問題行動より好ましい行動に目を向け、「しっかりあなたを見ているよ」「ちゃんと気がついていよ」を伝えていきたい。園での安全基地になれるように努力していく。また、各家庭の背景を把握し、保護者への支援を今以上に大切にしていける。